

佐藤紀雄

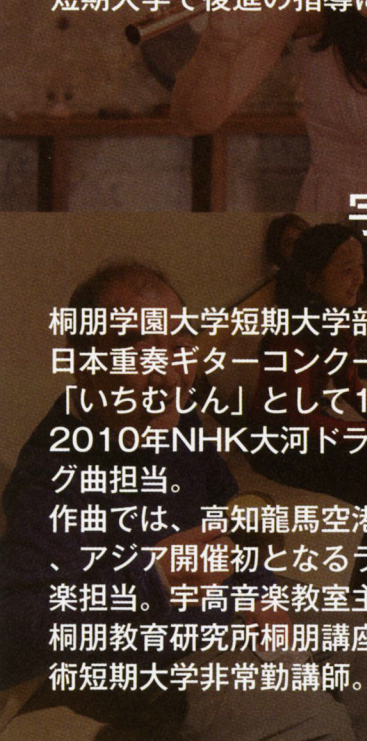


宇高杏那



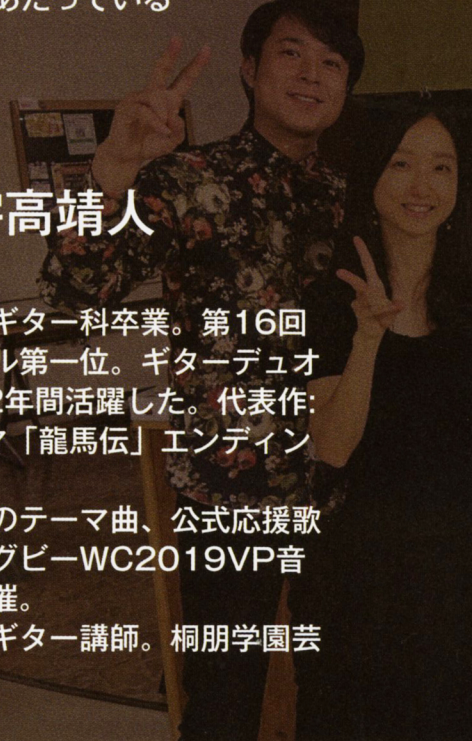
1971年、(現)東京国際ギターコンクール優勝。ギター奏者、指揮者として内外の現代作品の演奏、初演を手掛けている。1997年にアンサンブル・ノマドを結成し音楽監督に就任。世界各地の主要現代音楽祭に出演。これまでに京都音楽賞、中島健蔵賞、朝日現代音楽賞、佐治敬三賞を受賞。ソロ、アンサンブルのCDも多数リリースしている。現在、桐朋学園芸術短期大学で後進の指導にあっている

桐朋学園芸術短期大学、卒業。同大学専攻科修了。フルートを後藤晴美、丸山正昭、野口龍の各氏に師事。桐朋学園芸術短期大学卒業演奏会出演。フルート研究会「響き」コンサートミストレス。第33回フルートデビューリサイタル(日本フルート協会主催)出演。フルート&ギターデュオ”アルボル”としてもコンサート活動を行う。音とお話しユニット「おとばな」としても各地で公演を行う。



宇高靖人

桐朋学園大学短期大学部ギター科卒業。第16回日本重奏ギターコンクール第一位。ギターデュオ「いちむじん」として12年間活躍した。代表作:2010年NHK大河ドラマ「龍馬伝」エンディング曲担当。作曲では、高知龍馬空港のテーマ曲、公式応援歌、アジア開催初となるラグビーWC2019VP音楽担当。宇高音楽教室主催。桐朋教育研究所桐朋講座ギター講師。桐朋学園芸術短期大学非常勤講師。



松本努

桐朋短大ギター科卒業、リスト音楽院(ハンガリー)にてJエトヴィッシュマスタークラス受講、コンクール優勝者などを招聘するコンサート世界の奏者を主宰、コンクール審査員など多岐にわたる活動。(公社)日本ギター連盟正会員 ファスティングも指導し体調管理や栄養状態改善活動も行っている、臨床分子栄養医学研究会会員



房の露 西爵(しょう)エクセレンス 35度/720ml

「房の露」酒造の堤家は、熊本県人吉市の織月酒造の堤家から岐れである。球磨焼酎造りの中心地多良木に明治40年(1907年)創業。「房の露」の吟醸球磨焼酎は、熊本酵母による醸造に加え、清酒麹ともいわれる黄麹を使って、快い風味を醸し出す。その醪を低温発酵させたのち、さらに超低温で蒸留して採ったのが「吟醸・球磨焼酎・房の露」。フルーティーで典雅な香味が特色。この優れた米焼酎を、ヨーロッパから取り寄せたホワイトオークの樽に30年もの間貯蔵して、その中身に10年から15年貯蔵した複数の貯蔵製品の相性のいいものをバッティングさせたのがこの「30年古酒ブレンド」と銘打ったこの「醪(しょう)エクセレンス」である。コニャックの名品も採る手法で、樽貯蔵による絶妙の香りの良さと、ゆかしく深い味わいを生む銘柄は2015年春季の全国酒類コンクールで米焼酎部門の第一位の名譽を得ました。ご注文の際は百貨店またはホームページ <http://www.fusanotsuyu.jp> をご覧ください 1本 720ml 3675円(税別)